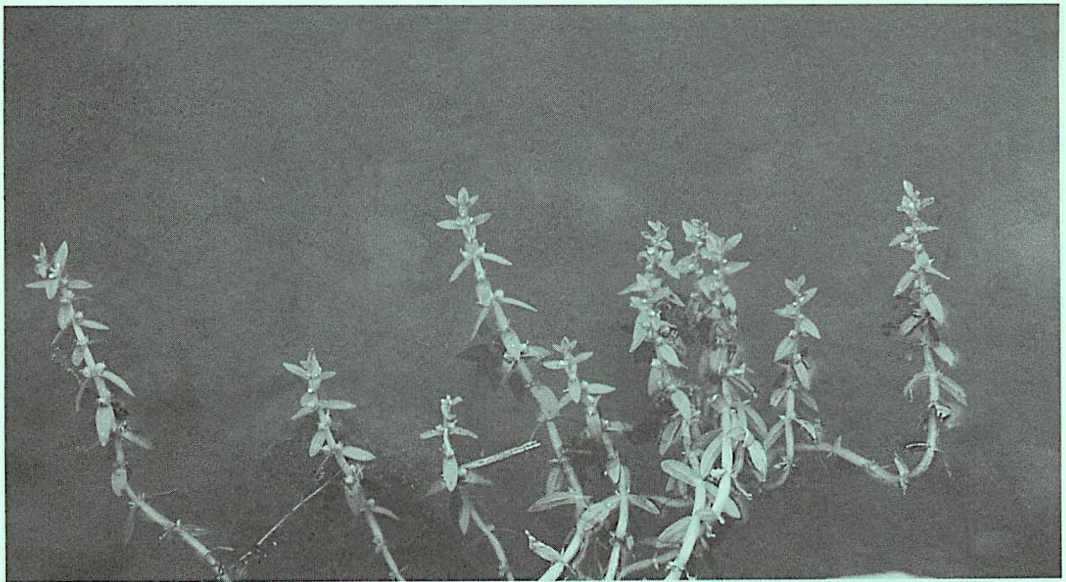


ISSN 0288-139X

水草研究会会報

73号 (2001年11月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 73 (Nov. 2001)

水草研究会

— 目 次 —

梅原 徹：大阪で絶滅した水草の標本採集年代	1
竹田 正義：但馬地方の水湿地に生育する絶滅危惧植物	7
津久井孝博：栽培下でのオオアブノメ <i>Gratiola japonica</i> Miq. の受粉と開花習性	18
神谷 要：鳥根県簸川郡大社町におけるボタンウキクサの越冬個体群の消失について	24
滝田 謙譲・高嶋八千代・神田 房行：北海道厚岸町でヨツバスギナモを再発見	28
[短 報]	
浜島 繁隆：ヤナギスブタの菌エイ	33

〔表紙写真〕オオアブノメ（北海道滝川市 1988年8月24日）

かつて各地の水田などにふつうに見られた「雑草」が、近年急減して絶滅危惧種となっている例は少なくない。環境庁版レッドデータブック（RDB）で絶滅危惧Ⅱ類としてリストアップされているオオアブノメもそのような種類かもしれない。しかし、普通の雑草だからといって、その生態がよく解明されているわけではない。本誌に掲載の津久井氏の報告は、そのような未解明の部分を埋める貴重な報告である。

オオアブノメについては、その分布についても正しい情報が伝わっていない。表紙写真は、1988年に北海道滝川市で撮影したものであるが、私がオオアブノメを意識した最初の写真である。この時の北海道調査で旭川市の水田でもオオアブノメを見ていた。しかし、帰ってから図鑑を調べると、オオアブノメは「本州・宮城県以南に分布」と記されていた。当時、保育社や平凡社の図鑑にこんな誤りがあるとは信じられず、自分の同定が間違っているのかとしばらく疑念を抱いたままの時間が過ぎた。そのうち『雑草研究』誌に載った北海道の水田雑草に関する報告の中にオオアブノメを見つけ、自分の同定は間違っていないという確信を深めた。本誌の津久井氏の報告にあるオオアブノメも旭川で採集されている。ちなみに現在も主だった図鑑は、あいかわらず宮城県以南に分布となっている。環境庁版 RDB が北海道における分布を記録している数少ない文献である。

オオアブノメは今や多くの府県で幻の植物になりつつある。しかし、条件さえ整えてやれば、たくましい生存力を持つ植物に違いない。

（写真と文：角 野 康 郎）